



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 6 月 2 日 (日)

発行 館長 加藤 智 一

見た目では判断しにくい！「キカラスウリ」
 幻想的な花そして、生薬「カロコン」
 赤ちゃんの必需品「天花粉」の原料

先日休みの日に、庭の草刈りを試みました。家を建てた当時は、芝生の庭でバーベキューを夢見て頑張っていた庭ですが、仕事に追われ、子育てに追われ（私はあんまりかかわってこなかったけど）、20年も経つと、いつの間にか、庭木は大木になり、植えた覚えのない木々が繁茂し、芝生だった場所には野菜の苗が植わっていました。これではいけないと思いつき、せめて雑草だけでも片付けようと思ったのです。実は、昨年にも試みたのですが、始めて早々に、蜂の巣を触ってしまい、蜂の逆襲にあったため志半ばで断念したのです。今年の作業はその辺のところちゃんと確認しましたので、怪我なく行けると思ったのですが、自然は甘くない。ウコギの棘とバラの棘に前進を阻まれ腕は傷だらけ。それにも増して私をいらつかせたのは、キカラスウリのくるくると巻き付く「つる」の存在。払っても払っても絡みつくように行く手を阻むのです。思えば昨年、「なんかおいしそうなのみみたいなのが、ぶら下がっているな。」とスルーしてしまったのが良くなかった。すごい繁殖力。それにしても花も見えないのになんで実を付けるの？



キカラスウリの
花と実



そんな訳で、怒り心頭に発しながらも、キカラスウリについて調べてみました。するとなんとということでしょう。使い方しだいでは、お薬になるし、環境対策にも役に立つ優れたものでもあったのです。

まず、中国最古の薬物書「神農本草経」には、キカラスウリの根は熱病による口の渇きに効果があると記載されており、キカラスウリの塊根を秋に掘り取って洗い、コルク質の皮をはぎとって乾燥させ「カロコン（栝楼根）」という生薬に加工されます。

カロコンは漢方では、解熱や鎮咳（チンガイ、咳を抑える）を目的に、虚弱な人の口の渇きがある疾患に用いられます。また、キカラスウリの果肉は粘りがあり、しもやけやひび割れなどにすりこむと肌荒れを抑える効果が期待できます。カラスウリの果実や果汁にも同じように、しもやけや肌荒れをケアする効果が認められるとされています。

そして、私は口にする勇氣はありませんが、キカラスウリの果実は完熟すると果肉の甘みが増し、おいしく食べられるそうです（そうは思えない）。未成熟の実には塩漬けやみそ汁の具として利用します。初夏から夏にかけて出る若芽は、さっと湯通しして和え物、炒め物にしてもおいしく、生のまま天ぷらや煮物にも利用可能です。飢饉のときには、キカラスウリの根のデンプンは葛（クズ）と同じように使われたそうです。

さらに、その塊根のデンプンはかつてベビーパウダーとして用いられた天花粉の原料でもあります。秋から初冬にほり取ったキカラスウリの塊根をきれいに水洗いして細かく砕き、ミキサーに根と水を加え攪拌します。ゴミを取り除く作業を何度か繰り返して、白いデンプンを沈殿させ布でこし、天日で乾燥させれば天花粉の完成です。くず粉を作るのと同じ作業ですね。

ところで、キカラスウリは、いつ受粉しているのでしょうか。キカラスウリは雌雄異株の植物です。雌花には子房（雌しべの基部の膨らんだ袋状の部分）があるため、つぼみがついたら雄株と雌株の判断ができます。7～9月ごろに開花するキカラスウリの白い花はとても特徴的です。萼筒（ガクトウ）が長い白い花は5枚の花びらの先端が細かく裂け、細かい糸が噴き出しているようにも見えます。キカラスウリの花が咲くのは夜中で、夕方から咲き始めます。夜間に活動するスズメガに花粉を運んでもらう植物です。夜に咲く花は夜間でも目立つよう白や黄色の花をつけ、よい香りでガなどの昆虫をおびき寄せます。だから私は花を見たことなかったんですね。

また、キカラスウリは温暖化対策にも役に立つのです。つる性の植物のため、夏の暑さ対策のためのグリーンカーテンとしても利用できます。

何事も見た目や感情で判断してはいけないという落ちでした。チャンチャン。